

# JA秋田厚生連 平鹿総合病院

## 病院の概要

開設年	昭和8年
開設者	秋田県厚生農業協同組合連合会
院長名	齊藤 研
病床数	一般580床、結核6床
標榜科 (常勤医師数)	内科、消化器・糖尿病内科(9)、呼吸器内科(1)、循環器内科(7)、血液内科(3)、神経内科、精神科、小児科(4)、外科(9)、乳腺外科(1)、心臓血管外科(2)、整形外科(4)、脳神経外科(3)、形成外科(2)、眼科(1)、産婦人科(3)、泌尿器科(4)、耳鼻咽喉科(2)、皮膚科、放射線科(1)、麻酔科、リハビリテーション科、歯科(1)、病理診断科(2)、研修医(11)
研修医 出身大学	東北大学、秋田大学、岩手医科大学、北里大学、日本大学
指導医数	35名
外来患者数	946.3名/日(平成28年度)
入院患者数	440.5名/日(平成28年度)



## 病院の特徴

昭和8年医療組合病院に始まる。横手市の10万人およびその周辺地域の中核医療機関として発展してきた。"より高度な臨床"、"より深い研究"、"より深い教育"さらに"より積極的な保健活動"の4つの柱が病院の理念である。平成19年に新築移転し、とても明るく清潔感あふれる病院は、患者さんのみならず、働く私たちにも非常に快適な環境である。自然は豊かであり、地域の温厚な人柄は初期研修医のストレスを軽減させてくれている。病院スタッフも若い研修医を育てるといった雰囲気がある。研修プログラム責任者は平成23年から変わり、研修医との定期的な面談をとおして、母親的な目線で研修医がそれぞれの目標を達成できるように配慮を心がけており、心身ともに充実した研修期間を約束します。

## 研修責任者コメント



伏見 悦子

出身地：秋田県  
出身大学：秋田大学  
専門科：循環器内科  
：消化器内科

当院は秋田県南地域の中核病院として、急性期医療から在宅医療までを担っています。そこで産声をあげたばかりの研修医が学ぶことは、たくさんの経験をもとに必ず大きな成長につながります。私は平成23年から研修責任者として関わってきましたが、当院の研修医の素晴らしい驚くほどの成長を間近に感じてきました。2年目後半の研修医は、頼りなさそうにしていた1年目の春からは想像できないほどです。できるレジデントがたくさんいます。それがどうしてなのか、ぜひ見学に来て、感じてください。



学会発表



研修医会

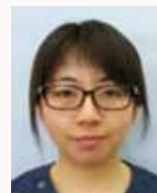


内視鏡研修



手術研修

## 研修医コメント



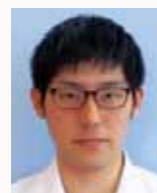
猿田和貴子

年次：2年次  
出身地：秋田県  
出身大学：秋田大学

まずはじめに、平鹿といえば、キツイ、厳しい、休暇がないというイメージが強いと思います。確かに内科では主治医となり、外科ではほぼすべての手術に関わる。自分の頭で考え、患者さんやご家族に誠心誠意説明し、同意を得ます。つまりすべての行動に責任が伴います。この責任こそが、平鹿研修の特徴であり、責任が成長の要因です。自分で調べてよく考えて治療にあたるからこそ、患者さんの容態がよくなった時の感動はひとしおなのです。

研修病院を選ぶということは、とても悩むことだと思います。自分の2年後を見据えた上でその病院の研修医をみてください。それが自分のなりたいたい医師像とあっているのか、考えてみてください。

鉄は熱いうちによくのびます。医師としての最初の2年間、まっさらな時に多くの経験を積むことが大切です。平鹿道場でともに学びましょう。



関 貴臣

年次：1年次  
出身地：群馬県  
出身大学：秋田大学

当院の研修の特徴は2つあります。

一つは内科での主治医制です。患者さんを診察し、必要な検査、診断、治療方針を、まずは自分で勉強し理解し自分の考えをまとめ、その上で上級医に相談し、最終的な方針を決めていきます。それは上級医の手厚いバックアップがあるからこそできる研修であり、非常に恵まれた環境だと思います。

二つめは、研修医の出身大学がさまざまであることです。秋田県の病院では秋田大学出身が多いですが、多大学の風を感じることができ、それは魅力です。そして先輩後輩の仲も良く、みな切磋琢磨しながら日々研修しています。

## 研修内容

### プログラムの目的と特徴

2年間の研修期間の中で、将来の専門性に関わらず、医学・医療の社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻りに遭遇する疾病および負傷ならびに病態に適切に対応できるように、プライマリ・ケアの基本的な診療能力(態度・技能・知識)を身に付けると共に、医師としての人格を滋養することが、このプログラムの目標である。このプログラムに沿って研修することにより、厚生労働省の定める「臨床研修目標」を達成することが可能である。さらに、2年目後半の選択科研修を適切に行うことにより、各診療科の専門医養成コースの一部とすることが可能である。内科・外科に関しては、希望者は3年目以降も各診療科で継続して研修を行うことにより、各診療科の専門医、認定医試験の受験資格を取得することができる。また、当院では、救急部が独立していないため、研修初期より救急当直の講義ならびに見習い当直を開始して救急治療の理論および実技を習熟できるよう配慮してある。

## 年間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科(消化器・糖尿病内科、循環器内科、呼吸器内科、血液内科)									救急	外科	
2年次	小児科	産婦人科	精神科	地域医療	地域保健(1週間)/選択科(希望により複数科も可能)							

※ローテーションの順番は任意。

※必修科研修の救急研修は、循環器内科に所属し救急中心の研修を1ヶ月行うほか、以下の当直により2ヶ月以上を確保し3ヶ月以上の救急研修とする。1年次は4月からA当直(17-22時)月3回、日直月1回、2年次はA当直月2回、B当直(22-翌日8時30分)月1回相当、さらに黄金週間や年末年始の日直、各科の時間内救急当番、時間外first callなどを合せて2ヶ月以上を確保。(合計 1年次:A直0.5日×3×12=18日、日直1.0日×1×12=12日相当。2年次:A直0.5日×2×12=12日、B直1.0日×1×12=12日相当。)

※地域医療は横手市内の開業診療所、当院より西へ約15kmに位置する市立大森病院・南西に約20km離れた羽後町の町立羽後病院・北西に約90km離れた八郎湯町にある湖東厚生病院の中規模の3病院にて研修を行う。1ヶ月の中での組合せは、協力施設と協力病院それぞれ2週間等可能である。※精神科は横手興生病院(研修協力病院)で研修。

※希望に応じて、東北大学病院での救急科、神経内科の研修も可能である。

※選択科研修は将来専門とする領域に役立つ科の研修をする機関。これまでの研修で不十分な科を再度選択することも可能。

## 当直

- 回数 2回/月
- 担当医師等 医師2名、看護師3名、薬剤師1名、放射線技師1名、臨床検査技師1名
- 当直時間 A当直17時～22時、B当直22時～8時30分業務
- 翌日勤務 当直日翌日の勤務時間は通常(仮眠可能)

## 院内勉強会

(H29実績)

- 主な内容 全科抄読会(週1回)、各科抄読会(週1回)、臨床病理検討会(月1回)、画像診断勉強会(12月～3月)、症例検討報告会(月1回)、合同症例検討会(週1回、第二内科と脳神経外科)、各科症例検討会(週1回～5回)、研修医講義

## 後期研修

内科と病理診断科は、専門研修の基幹病院としてのプログラムがある。外科は東北大学と秋田大学の連携病院となっており、そのプログラム上で研修可能である。そのほかの各科も秋田大学の連携病院となっており、当院での後期研修も可能である。

## 処遇

基本給	1年次 月額(税込み) 499,800円	2年次 月額(税込み) 531,400円
賞与	1年次 年額(税込み) 758,981円	2年次 年額(税込み) 1,250,400円
手当	当直手当、通勤手当、救急勤務手当、住居手当、家族手当、年末年始手当	
出張	学会、研究会等への参加有(旅費参加費支給)	
休暇	有給休暇(1年目10日、2年目20日)、夏期休暇、年末年始休暇、特別休暇(結婚休暇7日、他就業規則による)	
保険	健康保険、厚生年金、労災保険、雇用保険、医師賠償責任保険(病院負担で加入済)	
宿舎	有 賃貸アパート(50,000円まで病院負担)	
健康診断	年2回(自己負担無)	

## 募集要項

募集定員	10名(予定)
応募資格	平成31年医師国家資格受験予定者 平成17年以降の医師国家試験受験者でかつ、臨床研修未履修の者
申込締切	平成30年7月末日(予定)
試験日	平成30年8月中旬(予定)
試験内容	面接
病院見学	随時受入可(下記への事前連絡必要)

## 応募連絡先

所在地	〒013-8610 秋田県横手市前郷字ハツ口3番1
担当者	総務管理課 三浦 隆、酒井優美子
電話	0182-32-5121
F A X	0182-33-3200
E-mail	kensyu@hiraka-hp.yokote.akita.jp
U R L	http://www.hiraka-hp.yokote.akita.jp/

平鹿総合病院 新入職員歓迎会



同期の絆



医局旅行



## 交通案内・周辺環境



JR横手駅からバスで10分、秋田自動車道横手ICから10分